



尾張廻家芭

四之上

愛知県文化会館

505250

A911
1
2-4-1

尾張廻家色四

新古今集

恋歌一

和歌歌合急懸 攝政

いづのこころの仲夜やわれもくふと守あいられ

結句はなまは時分しものさへはし三句は事をもあ

やうかりなるこそ 年を属するこゝへ書くは花にこれ は花にこれ

の方への縁のまゝ そのまゝいづの仲夜は序自時の本堂あいられ くれし

くわす とよみたるを下のみり八幸にてあいられあいられとす

とす とす へしてまゝいづの

小浜宮歌合巻出 太上天皇御製

あしひきま木のしほよりうらたれわかし神のこころを
何處の下へかよりふゆをさへんく。

百首歌より付 慈田大僧の

もよみねをうたれはれりわがま當り京よ凡はくたの
二のうぐ人のつねきさ下分こころいさなを。

家ノ歌合巻出 攝政

んせしけくもまをひかりのちほいぬ神を人のこころ
中婦をかくるもいし杜といふ料なり一首のま神を
けあまのあやもいふまをまきやうたれはれん

けくもまをひかりやせん也結句人のこころ
ふかりぬもいしをきてやう各々の正けまのびのぬ
はれりあしつはるかすぬゆ
や海男まを用人きしきり室輝巻もろ女にぬもく
あのことれまのいしゆわを神る。

麻蓮

あはれぬ神をかくるをいしゆわぬもあふは
奉歌冬にわたりもあはれぬもあふは
つゆすき又わ物候のけ版のなで
下さずしてよめるつわもいしゆわ
あはれぬもあふは
もやいしゆわ各々の正けまのびのぬ
はれりあしつはるかすぬゆ
や海男まを用人きしきり

百首歌の中ふ忠虫 式子内親王

玉の法よばなかしてなむかへん人のちよみのよもわらゆ
もとのよを六のそよ葉のよはゆふかへん 一そのまうへそけい
いふうらう

もよれしをわらなるるもね赤のうりりてすな月日を

物つふ家のよーしても人しすねもいゆをををををを

やらめはなはまもねたのころ 二そのまのそけい
いふうらう

かろ事を思れて六のうらなる 三そのまのそけい
いふうらう

我ふいを人しや床のやまよりまほはせれ

本歌我しを人しや床のやまよりまほはせれ

そらめまうらりヌー人しや床のやまよりまほはせれ

一つ武 一そのまのそけい
いふうらう

百首歌の中ふ耐忍 入道前白太政大臣

よしたたはけいあなれし作りのゆをまきこさる

一そのまのそけい
いふうらう

一首首歌あり 攝政

くらとらんりのまをよもあのだりしやぬ神仲風

本歌ゆのよもよも 二そのまのそけい
いふうらう

便しすねいへるのまをよも 三そのまのそけい
いふうらう

事なまき 本歌ゆのよもよも

仲風ぬをいあわりのぞたまき 二そのまのそけい
いふうらう

おぬぎの仲は汝風まじりてをたふすべしとのをを不よりあてていふ
ふき使ふかりし二五二三ハ序まじりてのつるあり。あつらひのりてとてあ
なまきまづいをいせあつら
便なきあをえり。

題一らと

式子問歌口

ちせし跡なき浪まじりてのりしつね八まの一月風

本歌三つなきの跡なき方なりねんを便の一人

ありたるうねれを歌のてなきをさす。 なまこの勢をいひ

あれと述べはくおぬぎならぬいづれにあらん たれにのいひたるお

とまじりて平はよりたつ井さふおぬぎをいふ その一人本歌と

三分かりしとて世の歌なき三ゆかぬ あつらひとてし

今こいひ 三つ下のまじりていふのをててんす。すなわち序歌は

なしのりのでまじりていふをえりてまじりて何なり何なりとていふ人 し

一その三ハまの波風と浪なきをいふとてあつらひのりなき物たるをいふ あつらひ

たつらなきやうにおふあつらひ
いしていひをえりていふ

本歌不平令と恐此撰改

難波人いふまじりてをいふ あつらひ

二三のうねを浪のまじりて あつらひ

けそと あつらひ

とていふ あつらひ

人の あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

隠名忠

俊成

誓のうらみめをなすす入つてきたの情をたづね候ぬ
 二三のうらみ候もなる所ねめの海より来てを来たひたる
 まうたよるるさ一度あひつれも主人出なれを
 し隠せるなを罪しふ事なをあらへしたる也
楊女
 といふ事の後をみゆるもいふはよとるもまふなり二面をうく
 わるりし一し此の事なをねねの海のことたよるるさしひつれ也
 しな作はなといふ事なをせせはあなもなを尋ね
 見ねぬよよもそのやいふ事なをまわらばま成格と成
 といはれりも打ねらさるるこのてをなす
二そのまひ
 又たのうらみさかしまを何と尋ねんをいふ事なをのうらみ
 けしつれ達しなすいしあれもなすも成さわい之は成はれぬ事な

すきうらみありし情海三番あり
 物切りありぬ事なとれをいづく

戀歌二

年首歌より八寄申忠俊報つ世

下りふかりの情を人相なき跡なき申のけてありそさ
 上三つと情の家にて思ひ世はこゝろなる相なき泣
 のをより人跡なき申こゝろいつれ情のわたりし
 けすかたの申をかりけり相跡なき人なす年首
 のさび世にてあふ人もうれしつれは情のこゝろなす
 情の末さよは情なき言となりて人とのあきし

攝政家巨首歌合 定家朝臣

かひいけの審の力不火なきもめす相公堂よりりりり
くはらひくはらひくはらひくはらひくはらひくはらひ
なる後年の判よりりりりりりりりりりりりりりり
例いぢれりりりりりりりりりりりりりりりりりり
なる月よりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
えいりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まゝいりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
と承られたる例よりりりりりりりりりりりりりりり
政令のいりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ゆづりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

能くわす。一りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
長きものを共くきりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
おきてたもきたる。こころよりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
きんとくえりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
いりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

巨首歌合 財忠歌 攝政

いりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
とわらふ何のきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
果までりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
悉のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

二條院後改

みちろ七入り後の若くは御座候の下のしりあふ

と月とて入り候後の若くは御座候の下のしりあふ

若くは下の下し入りの若くは御座候の下のしりあふ

は御座候の下の下し入りの若くは御座候の下のしりあふ

ききしりあふとて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

かきしりあふとて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

御座候の下の下し入りの若くは御座候の下のしりあふ

一物のしりあふとて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

とて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

二三片若くはとて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

とて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

御座候の下のしりあふ 御座候大い

左大將侍は御座候の下のしりあふ

撮政

ちりあふとて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

一そのしりあふとて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

とて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

とて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

とて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

とて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

とて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

とて本おはせりてしりあふ大い本おはせり

この人の跡もなきもてしほひなきに執着の念も疎
らむもてなき人果てん<sup>はまなき人の
疏のゆかり</sup>

千五百番歌合よ

通光郎

限あひはくしの山はくもも藤原の人のあまきこし
物乞ふふいのるも限のありてしほひのいそら
わびかえりいそきよんち株もいそ藤原のせせと
君も山をばげんてわひれなるさきよんちなるうー
うのよきかした株もて
止のちろふ也せら用なきにんはて株の藤原とせしう
かりかまよ藤原のいそふに根をへて果てたてしほきこ
いたはふ又藤原とのさしほひをいそふをい入る

泪の色のついでるもたつて限のこのうら
らねかきとこのれもねもたつてえ一のいぬき
きよ一そのことわおは限うあかたて下のちいと人よう
とす^{とすしに果て八袖の上のあのをいそむかひううらうらとす}
二條院潜む伎
うらむてうらまねをいほはこふの南の管のたぐ縄

うらむてうらまねの心のぬ一そのこと
人かえ一のふこのさかたてふしほひとす

和歌伝舟合は依憑傍感春宮権大夫三昧

志く^心いそひのそりしせをせつな水もあつたれ
はつ散をせまなちよにせそて一そのこと若ねつこいよりわつてしほをせ
きたるよふ水りますそのことさむやえいそて下まつじかよ地いませ
ゆきれんと八世とす
ちあていこやとてうら

それこそ一も本おのり走馬ばちか人くらぶ
わらわていふふきさか
本をこの本とのいへていへていへて
つゝきさき先きの一癖しるきさ
くは五よはていふふきさか
ふくは五よはていふふきさか
くは五よはていふふきさか
くは五よはていふふきさか
下をハカヤの一ケ條しては行くのそくそく
夕ぐれの空すくすくもむかしとてまらまら

あの花白女きりな 後成

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

水争御座下立歌を撰改

山川の岸のけりぬさをわらわてあてりりや
本歌すまはぬの地かさねぬをあらまか
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

此の巻の巻末ありて云ふは人々は法を信じてんば云々の事
ハ巻中いふ如く必やくある事なりといふべし。佛教は云々といふは
これこそわが国の日本に傳へられたる。ハ佛教にて寧ろ佛に云ふこと
らむと云ふよりわれ英雄の心をハ佛の心と明くすの事も云々
といふ事なり。ままた、佛の心を云ふ事をもわが人の心といふ
事とせざるべしと云ふ也。

父の忠

秀敏

り不統あるは、残念の夕信たつを、しむりいたを、
題の父のまに、しむり、
さしむりわが、人々の心を、しむり、
心を、しむり、

まじの、まじの、
人々の、まじの、

悔を、
悔を、

定家朝臣

は、の、
か、
な、
て、
ま、
と、
あ、
め、
の、

てききり
こればかりならぬ結のしんれは行ふかあ
 りかゝるをいふはさういふはさういふはさういふは

攝政家歌合 実蓮

ありともあわぬぐのたね川をたはして旅せぬ本
 本歌をつらふあわいふ名名取のききとつり
 てこころわたり花取川の名もききとつり
とつりといふ名とつりといふ名とつりといふ名
 の本歌といふ名とつりといふ名とつりといふ名
 かわいせぬもわさききとつり
あるをききとつりといふ名とつりといふ名
 といふ名とつりといふ名とつりといふ名
 といふ名とつりといふ名とつりといふ名
 といふ名とつりといふ名とつりといふ名

千五百番歌合 攝政

なをふまはともあはれとね川づきの旅まて果ぬ
 今とてあかすともはと既しき名をききとつり
 朽そたるもはとつりといふ名とつりといふ名
 世もなはとつりといふ名とつりといふ名

百首奇事一冊 二條院潜政

なをふまはともあはれとね川づきの旅まて果ぬ
いふ名とつりといふ名とつりといふ名
 いふ名とつりといふ名とつりといふ名
 いふ名とつりといふ名とつりといふ名
 いふ名とつりといふ名とつりといふ名
 くれしつりといふ名

攝政家百首歌合 高松院若狭門匠

よき事をおしなせし事—世々の人の袖のいろは
 下の八分を出しては本道の色を分けて神のまゝをわきまをうへに
 念ふ事—おまへさんのおへちの腰はどのまゝをわきまをうへに
 申すては圓であるがよき事—そのまゝをわきまをうへに
 わかちめしめぬ事—おまへさん、わたしはあつちのまゝをわきまをうへに
 かくるゝねののへちを出しては本道の色を分けて神のまゝをわきまをうへに
 りしては本道のまゝをわきまをうへに

百番がよ

式守内親王

夢てまきむしむねなきはけいせぬ人の袖のいろは

上三下下とけ合しと

上三下下とけ合しと—上三下下とけ合しと—
 かくるゝねののへちを出しては本道の色を分けて神のまゝをわきまをうへに

いふ事—わたしの袖のいろは
 神のまゝをわきまをうへに
 りしては本道のまゝをわきまをうへに

らん物—わたしの袖のいろは
 神のまゝをわきまをうへに
 りしては本道のまゝをわきまをうへに

うしひのりるまのきりぎりすはなれ

後徳大寺公大直

けあつちのむねをわきまをうへに
 二そのまゝをわきまをうへに
 かくるゝねののへちを出しては本道の色を分けて神のまゝをわきまをうへに

ふゆのふゆをわきまをうへに

よき事をおしなせし事—世々の人の袖のいろは
 下の八分を出しては本道の色を分けて神のまゝをわきまをうへに

有るすしかりして
忘れりありとて

五十首歌すし前大納意良

たのめをいへばちて秋はてを候なりし昔の通略
おぼいせ物忘れたるていひをいあはくもあはり
しとえをたあひれ林をていへ家お歌の詞をい
かくてうまにいれし歌をてはるあはれもなすて
ひてとあはり候りたるまをいひては秋をては夏
秋をては俗言を秋をていひいひるも木葉あり
く所をたへはてを候なり秋はてはあはり
とやまねのんもあはり冬は物たるを秋の末

あはり候りたるまをいひては秋をては夏
秋をては俗言を秋をていひいひるも木葉あり
く所をたへはてを候なり秋はてはあはり
とやまねのんもあはり冬は物たるを秋の末

攝政家百首歌すし中宮たる家房

あはり候りたるまをいひては秋をては夏
秋をては俗言を秋をていひいひるも木葉あり
く所をたへはてを候なり秋はてはあはり
とやまねのんもあはり冬は物たるを秋の末

家隆朝臣

あはり候りたるまをいひては秋をては夏
秋をては俗言を秋をていひいひるも木葉あり
く所をたへはてを候なり秋はてはあはり
とやまねのんもあはり冬は物たるを秋の末

今の花の顔てもいふわれもをちりまのりち。
又いふかきかのからみあひをよと思はれ火とよせよ。

巨首歌の中へ 惟の初を

あふ事のいふき雲のは雲の身と一雨の便かむらり

ててーちあふはあふ方の奴すね事をすめてはつて流す雲かみ。
は雲のうきまよとてたふ便かむの初とていふかとのよへ。

通具に

試にいれわれを浪のほたななりしきぬ空けりき雷
本舟よといはりしきしとこぼれぬらみりあせ本歌
あふを浪とめふいあふいいふらみりあせ本歌そのた
のまばらあききへは雲はくへしとすあききりわ
せんいそのとこ我念たあふをきついずりてわら。
まきあふあふいりわりのつれわはしす。

水雲願悉十五首歌合へ春恋 俊成の女

あはれをすめかそむらりたるまはれし一の梅のまは

あはれをすめかそむらりたるまはれし一の梅のまは

あはれをすめかそむらりたるまはれし一の梅のまは

あはれをすめかそむらりたるまはれし一の梅のまは

あはれをすめかそむらりたるまはれし一の梅のまは

あはれをすめかそむらりたるまはれし一の梅のまは

あはれをすめかそむらりたるまはれし一の梅のまは

定海にて船をいひし事はそのいひしよりまじり

一節

秀餘

神のうへに流るる月がまじりしをいひし人のよし

同くしをいひし人なりてありしはいひし人無ふ人

一そのまじりたる流るる月にて神を敬りて月をいひし事ありて

は流るる月をいひし事ありてまじりたる月ありて

てまじりたる月ありてまじりたる月ありて

てまじりたる月ありてまじりたる月ありて

てまじりたる月ありてまじりたる月ありて

てまじりたる月ありてまじりたる月ありて

てまじりたる月ありてまじりたる月ありて

してはながれし事ありし人のよし

いへる事ありし事ありし人のよし

人をいひし事ありし事ありし人のよし

久患

越前

夏川の川の流れの事ありし事ありし人のよし

一そのまじりたる流るる月にて神を敬りて月をいひし事ありて

は流るる月をいひし事ありてまじりたる月ありて

家の冒険合の事ありし事ありし人のよし

いへる事ありし事ありし人のよし

本が和歌式をいひし事ありし事ありし人のよし

奥山にまゐりてある此つぎを云ちらばりぬ女おのて
 けがなきぬめ仲のりか上のおねが部や舟のりか入へば我が三式不の
 夕きね川とある公け仲の言せどもて玉ちりてよませるんかませちりぬ不の
 玉ちりぬおりの小るをいへるを。か、おねが部や舟のりか入へば我が三式不の
 のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不の
 けがなきぬめ仲のりか上のおねが部や舟のりか入へば我が三式不の
 のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不の
 けがなきぬめ仲のりか上のおねが部や舟のりか入へば我が三式不の
 のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不の

定家朝臣

幸しぬのち峠はげつせ出さのの降のよその夕たれ
 下夕尾上の降かゝるおまかたに遠くきこゆるんよとを

とつげたり。尾上てつてはし。さきさきあふすまをそら入よとて。廻り入
 かりしりか。さきさきあふすまをそら入よとて。廻り入
 尾上の降向出の燕波のこ。はげつせ出さのの降のよその夕たれ
 おのりぬまおまかたに遠くきこゆるんよとを
 きりかたに。折の寺。かた。て。その人のあふ
 かた。さきさきあふすまをそら入よとて。廻り入
 おまかたに。折の寺。かた。て。その人のあふ
 中て。幸しぬのち峠はげつせ出さのの降のよその夕たれ
 けがなきぬめ仲のりか上のおねが部や舟のりか入へば我が三式不の
 のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不の
 けがなきぬめ仲のりか上のおねが部や舟のりか入へば我が三式不の
 のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不の

尾上

後成郷

けがなきぬめ仲のりか上のおねが部や舟のりか入へば我が三式不の
 のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不の
 けがなきぬめ仲のりか上のおねが部や舟のりか入へば我が三式不の
 のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不のりか入へば我が三式不の

とらさうとわいふ命のわらさ
余はよめ八邊衣もわらさし人
 たりしころあををわらさし
 さはせふようれがよも命をあらなふ長半月の中まはり
 けりしとてわらさし折をまつよけしと命といふ物あらし
 けりしとてわらさし
 とわらさし逢ねをまつりてわらさし
 とわらさし

八條院高倉

つれなき人のころどつ棟のまき
人のんがなつてわらさし
 一そのまをよめをわらさし

西行

何れもはとらさし命ふあわて
一そのまをよめをわらさし
 一そのまをよめをわらさし
 かりい人あわねの世なりせし
一そのまをよめをわらさし

人有りいひはばせきたかた
一そのまをよめをわらさし
 世歌い
一そのまをよめをわらさし

恋歌三

百首

式子内親王

あふ事とわらさし
 本歌を
 中のかん物

まづいづかきもるを縁あり
まづいづかきもるを縁あり
まづいづかきもるを縁あり
まづいづかきもるを縁あり
まづいづかきもるを縁あり
まづいづかきもるを縁あり
まづいづかきもるを縁あり
まづいづかきもるを縁あり
まづいづかきもるを縁あり
まづいづかきもるを縁あり

題一号 西行

あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し

あわれまひきなりて人の神をわびつるか
あわれまひきなりて人の神をわびつるか
あわれまひきなりて人の神をわびつるか
あわれまひきなりて人の神をわびつるか
あわれまひきなりて人の神をわびつるか
あわれまひきなりて人の神をわびつるか
あわれまひきなりて人の神をわびつるか
あわれまひきなりて人の神をわびつるか
あわれまひきなりて人の神をわびつるか
あわれまひきなりて人の神をわびつるか

題一号 西行

あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し
あふまの命もまぢひを極し

くもつてくもつてつたか
あつたか

ほつ出

攝改

又よ第... 林... の... 時... 春... 田... 鳴... 又... 林... 又... 鳴...
の... 時... 春... 田... 鳴... 又... 林... 又... 鳴...
の... 時... 春... 田... 鳴... 又... 林... 又... 鳴...

題一守

小侍徒

あ... の... の... の... の...

く... の... の... の... の... の... の... の... の... の... の...

題一守

藤原知家

あ... の... の... の... の... の... の... の... の... の... の...

西行

あ... の... の... の... の... の... の... の... の... の... の...

何れをよみいしれぬかたはほむも一物も山はるの月
 はつしとくし舟とてこも月をほむもいづも人あらず
 下をあせりぬ心月のまはるまはる首のまを研をけりて
 入るもかきりわらぬたなぬつて力ぬもかきりぬ
 物かきりておひたるまかきりぬて月ぬをまはる

寄風志

宮内

かきりぬておひたるまかきりぬて月ぬをまはる
 物かきりておひたるまかきりぬて月ぬをまはる
 下をあせりぬ心月のまはるまはる首のまを研をけりて
 入るもかきりわらぬたなぬつて力ぬもかきりぬ
 何れをよみいしれぬかたはほむも一物も山はるの月

とて海の門へ二てのまはる一めたりのまはる一か風ですま
 下をあせりぬ心月のまはるまはる首のまを研をけりて
 入るもかきりわらぬたなぬつて力ぬもかきりぬ
 何れをよみいしれぬかたはほむも一物も山はるの月

題一守

西行

人かきりぬておひたるまかきりぬて月ぬをまはる

ニカよりわらぬたなぬつて力ぬもかきりぬ
 何れをよみいしれぬかたはほむも一物も山はるの月

八條院高倉

何れをよみいしれぬかたはほむも一物も山はるの月

後後遺松風八もやなり吹つし物か人の身をも一か

とりも舞もなりて後者のまに歌いなりおまじしむらめくして風

かたもわ物すか人の身もむ物かろふほめたる昔も八又

かすりしもなりて物もむらめくタムカトナリと物帯して人かすり

したのりかぶりあまやタタンのねんのおまじしむらめく

は舟物の舟も二方のいしれもなりてのひかす

してそつおひのりかぶりもなりて付物もす右と未考右の歌

長明

たのめか人かすれはたはははあめねねねの歌

たのりもそそあのがかたなり我さしてたのめ

なるかあねもたんののりかろくもせむいけれのそ

かろく二考のまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに

かくてかたも人結句もたのりかろくもせむいけれのそ

あのかろくもそそあのがかたなり我さしてたのめ

たのりもそそあのがかたなり我さしてたのめ

考歌

とまじたのめりもをせねねねたのりかろくも

本歌今もそそあのがかたなり我さしてたのめ

歌をかろくして舟かろくもそそあのがかたなり我さしてたのめ

ともまじたのめりもをせねねねたのりかろくも

花より障有てえいねわつてにちからくそく心をも
月もく果んまらして月の光をくらやみとちひなる人

待止

武子内親王

花よりわやいね枝のきふいこもやけを山道の月

本が更なるわわいしほくそく社の枝もほをくらやみ

くしりのせつがひもあつてくしりあななれりしそく
そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
山道の月もあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

この歌を 西の

なめぬそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく

月下枝 くしりのせつがひもあつてくしりあななれりしそく
なめぬそく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
そく そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく

定家朝臣

ゆはのわやいね枝のきふいこもやけを山道の月

花よりわやいね枝のきふいこもやけを山道の月

本が更なるわわいしほくそく社の枝もほをくらやみ
くしりのせつがひもあつてくしりあななれりしそく
そくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそく
山道の月もあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

片思

入道木園白大改存

いづれをりつはをさのふやわちと今世もあしむわいあせよ
一そのまゝとんがと入つたてんをさのふやわちと今世もあしむわいあせよ
とていれん財よかかひあてんをさのふやわちと今世もあしむわいあせよ

攝政家百首歌全巻並巻巻八信云

たすめめは公人のいつしりをうまねてそへいふ
ただめいよやくと人を難くするはなほよ
そなたのめいあそふよまをたよとていふは
こそ事のなき財よかりけり一の事わんころふ財
よつふ言えづついはあづちの物よなたの文よ
あつこもたたりはあそふいはゆるはをよまわさる

かきかたつものまを事わく公財よまをいふ
まを人んとよしてあそふよまをのつわりとて
人々の結ぶまをよのまをねていふよまをわ
をわいて舟よ人の恨ゆるよまをよまをよて今
まをのまをまをよまをよまをよまをよまをよ
わいづつあゆのなをわたりんをよまをよまをよ
いへるをわたりんをよまをよまをよまをよまをよ
わいづつあゆのなをわたりんをよまをよまをよまをよ
いへるをわたりんをよまをよまをよまをよまをよ
人て財よまをよまをよまをよまをよまをよまをよ
なをよまをよまをよまをよまをよまをよまをよ
のまをよまをよまをよまをよまをよまをよまをよ
恨ゆる人よまをよまをよまをよまをよまをよまをよ

題一守

小侍従

おきて他人のよきことせむを恨じしをかくしめ油さか

つらつらにおもひ我後ハ世（世の世）をわたりてわが

なりはま（下りの世なること）をわたりて教のまじり上よりあるを恨む

人の世をわたりて守りしを恨む世の世の世

女つらつらなる 後和

よしは後の世となたためかけつゝわが世をわたりて

我ハ君を信しはまは世すも死ね世もあまなれど

やせ世もつらつらなる世の世の世の世の世

（下りの世なること）をわたりて教のまじり上よりあるを恨む

わが 定家御書

たのめかしらるゝわを并して世の中のをなす

ゆるくばの世を恨むまをわたりてわを恨む

の縁よりて今もて逢うゝを恨むわを恨む

なき世を恨むわを恨む縁のまじりて逢う

てなすわを恨む世の世の世の世の世

月排刀塚古田

愛 知 県



1105052505

911

1

2-4-1